

ライフサプリ
第3回「手術療法について」
腰椎椎間板ヘルニア
連携のわ
吉井外科内科クリニック
ニュース
サイバーナイフ棟リニューアルのお知らせ
11/25 市民公開講座 愛脳会開催!

特集「未来に向かって」

2025年には700万人!
認知症とは?

2025年には、65歳以上の高齢者の約2割(700万人)が認知症を発症するとされています。当院では昨年約6,000人の外来新患患者のうち900人以上を認知症と診断しました。

認知症とは「一度正常に達した認知機能が後天的な脳の障害によって持続性に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態」(認知症疾患診療ガイドライン)をいいます。この認知機能とは、記憶だけではなく、注意、遂行機能、言語、視空間認知、行為、社会的認知などを指します。したがって、認知機能の低下があっても軽度なため、日常生活や社会生活に支障をきたしていなければ認知症とはいえません。また、記憶障害が無くても認知症の可能性はあるということです。

検査方法

ものの忘れや認知症を心配して受診された方に対して、①問診で病歴を詳しく聞き取り、②各種検査(血液検査、認知機能検査、画像検査)をできる限り当日中におこない、診断するよう心がけています。

当院の認知機能検査では見当識、記憶力、計算力、言語的能力を測定する簡易的スクリーニングなどをおこない、症状を評価します。30分程度でおこなうことができ、昨年は約3,000人の方が検査をされました。

血液検査

肝・腎機能を含む一般的な項目から、認知症の原因となるビタミンや甲状腺ホルモンなどを調べます

画像検査

脳内の異常や萎縮を調べます



- ① 医師による問診
患者さんの症状に合わせて診察をします。
- ② 画像検査 MRI
強力な磁波で体内の画像を撮影する装置です。脳の異常や萎縮を検査します。
- ③ 認知症サポーター養成講座
認知症の人とその家族が安心して生活し続けることができるよう、サポーターが地域に増えることを目指しています。

診察前に自身の病歴チェック

病歴は、認知症の診察の中で最も重要な情報です。いつ頃からどのような症状があり、どのように進行しているのかは疾患そのものの特徴につながり、病歴から診断を推測することができます。また、内服薬が認知機能低下に関わることもあり、多剤を併用されている方は注意が必要です。事前にとりまとめ、診察時に医師へ伝えましょう。

地域と連携し、暮らしやすい社会を

認知症は、診断・治療以外に、精神症状などへの対応、ケアの問題、終末期の対応などさまざまな問題がかかえています。今後、認知症患者がさらに増えることが予測される中、当院は急性期医療を中心とした専門病院として地域との連携を密にし、認知症を持つ方々が暮らしやすい社会に貢献できるよう努力してまいります。

中区保健医療介護福祉地域連携懇話会 - なかまちーずの取り組み -

岡山市中区では地域の保健・医療・福祉分野の連携機関や行政と協働して、誰もが安心して住みなれた地域で最期まで暮らすことができる仕組みづくりに取り組んでいます。繋がりの発展や予防から介護まで切れ目のないサービスを受けられるよう、地域住民との意見交換会や多職種連携会議などを実施しています。



なかまちーずには、チーズのように地域に溶け込み、繋がりたいという意味が込められています。

10月22日(日) 岡山ふれあいセンター なかまちーずフェスティバルを開催



第2回となる地域との繋がりに向けたフェスティバルでは、町内会や地域の協賛企業、大学の方にも協力を得て盛況に開催されました。当院は、実行委員や事務局を担い、認知症をテーマに井村医院の井村院長と協働で「認知症サポーター養成講座」や、弾き語りコンサートなどを開催しました。岡山リハビリテーション病院との共同ブースでは、感染予防の手洗いや心肺蘇生の体験などをおこない多くのスタッフが参加しました。

TOP'S VOICE

期待や喜びで「ときめいて」新春をお迎えのことと思います。

日本は世界の先端を走る「長寿社会」です。言い換えれば、人は100歳まで成長できる時代です。未来に向けて、老若男女のひとり一人が「ときめいて」日々を過ごすこと、そのためには、互いに尊敬し、共に育ちあって真の生命と生命の絆(life line)をしっかりと育てていくことが大切です。皆さんにとって、良き新年でありますように。



院長 土井 章弘

新たな年を迎えてお喜び申し上げます。さて、今年は診療報酬上の医療保険と介護保険の同時改定の年です。これはとりもなおさず、治療と介護のより密接な支え合いが重要となるという考えにて改定されます。相手を思いやる心、仁の心が大切です。今後は、ますますご高齢者の治療と介護の切れ目のない、より実生活に密着した対応が必要となります。それには、医師を始め多職種の協力が大切となるでしょう。



副院長 土井 基之



診療技術部
リハビリテーション課
作業療法士

はだの よしのぶ
波多野 恵信

認知症の方がリハビリを通して、自分らしい生活を送れるように支援をします

Q 主な業務

A 主に入院患者さんのリハビリをおこなっています。患者さんが退院後に日常生活動作、趣味、家庭での役割など、その人らしい生活が送れるように支援をしています。
より良い支援のために、目の前の疾患だけでなく、患者さんひとり一人の価値観、生活状況、ご家族の思いなどを把握できるように、コミュニケーションを大事にしています。



病棟に出向き、認知機能の課題に取り組んでいます

Q 仕事の中でやりがいを感じる時

A 担当している患者さんがこれからの生活に自信を持って、笑顔で退院していける姿を見た時にやりがいを感じます。
また、患者さんがリハビリを通してトイレにいけるようになったり、ボタンを留められるようになったりと、どんな些細なことでも生活の中でできることが増えていくと喜びを感じます。

Q 認知症の患者さんへのリハビリ

A 認知症の方は時間、場所、人が分からなくなったり、物忘れをしたりしても、その時に感じた感情は残ると言われており、その心理状態によって症状が良くなったり、悪くなったりします。
生活を支援する作業療法士として、患者さんが落ち着いて過ごすことのできる作業活動や趣味の提案をしたいと思っています。

Q 患者さん、ご家族、地域の方へ

A 地域の公民館で認知症の予防教室をおこなっており、予防法のほか、認知症の患者さんに対する接し方などもお伝えしています。
地域の中に、認知症でお悩みの方、認知症の方が身近にいて対応方法を知りたい方がおられましたら、私達が公民館に講師として出向くこともできますので、お気軽にご相談ください。

そこが知りたい

地域の活動シリーズvol.2

操南団地 あじさいクラブ

当院の近隣にある操南団地では、民生委員や愛育委員の方が中心となり、約10年前から団地内で毎月サロンを開催しています。毎回約30名の方が参加され、健康体操やレクリエーションをはじめ、歩く会やバス旅行など幅広いテーマを企画し、お茶や会話を楽しみながら和やかな雰囲気でおこなわれています。

サロンとは？

地域で高齢者や障害者、子育て中の方が、生きがい活動や元気に暮らすきっかけを見つけ、地域の住民同士のつながりを深める自主活動の場です。地域で交流の場を設けることで、地域への関心を深め、近隣での助け合いを育む地域づくりを支えています。
サロンに参加することで、人に会う機会が増え、同世代はもちろん、携わる方との交流により地域のネットワークができ、安心して生活する環境づくりにつながっていきます。



知っ得情報

医療費の控除について

1年間に支払った医療費が一定の額を超える場合、税金の還付を受け取ることができる制度です。申告時期は確定申告(2/16～3/15)で、お住まいの地域を管轄している税務署へご申請ください。

申請に必要なもの

- ・医療費控除に関する事項を記載した確定申告書
- ・医療費の支出を証明する書類など

申請できる方



医療費

1/1～12/31までの
1年間に**10万以上**
または、**所得の5%**

詳しくは、お住まいの地域を管轄している税務署へお問い合わせください。

[国税庁ホームページ](#) ▶





ライフサプリー

腰椎椎間板ヘルニア

第3回「手術療法について」

どんな人が手術を受けるのか

治療の基本は手術をしない保存療法となります。しかし、仕事や家庭の事情から早期に疼痛から解放されて普段の生活に戻りたいという患者さんが増えている背景もあり、早期退院を期待できる手術をおこなっています。

手術をおすすめする人

- 保存療法で疼痛が改善しない
- 尿が出にくいなどの排尿障害が出る
- 仕事の都合などで早期社会復帰を希望

手術療法の種類

手術療法の長所は、何といても下肢痛の症状が速やかに軽減することです。

手術療法には、内視鏡の手術とレーザー治療があり、いずれの手術をおこなっても再発というリスクがあることも注意が必要です。椎間板が悪くなったことが原因で髄核が飛び出しヘルニアという状態になります。飛び出した髄核は手術で切除できても、悪くなった椎間板は残ってしまうので、どうしても再発が生じます。

再発させないためにも、日常生活で注意するポイントがあるので、気になる方はご相談ください。

内視鏡手術

・MED
(内視鏡下椎間板摘出術)

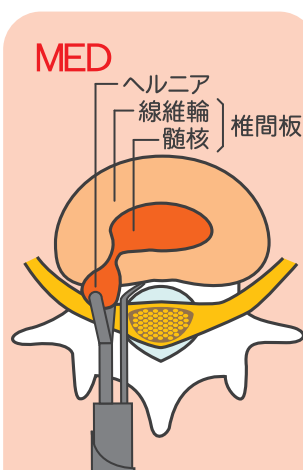
保険適用

・PED
(経皮的内視鏡下椎間板摘出術)

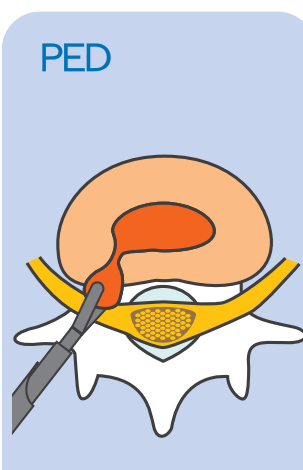
レーザー治療

保険適用外

内視鏡手術の種類



骨の一部を削り、神経を避けてヘルニアを切除する



骨と骨の間に器具を通し、原則骨を削らずにヘルニアを切除する

導入

既に多くの病院でおこなわれている手術

当院で2017年5月から採用した新しい手術。まだ多くの病院では導入されていない

侵襲

全身麻酔
2cm程度の皮膚切開

局所麻酔
1cm未満の皮膚切開

入院期間

約1週間

2泊3日

PEDは早期退院が期待でき、患者さんの負担の少ない手術と言えます。しかし、ヘルニアのタイプによってはPEDで切除できないこともありますので、医師によく相談してください。



吉井外科内科クリニック

吉井 荘哲 院長

施設の特徴

当院は、東区瀬戸町にある、有床診療所です。診療内容としては、上下部内視鏡による検査・治療や肛門疾患手術などの消化器診療を1つの柱、かかりつけ医・家庭医としての総合診療をもう1つの柱として、取り組んでいます。訪問診療は、主にがん患者様の在宅看取りを中心におこなっております。

微力ながら、誠心誠意、当院を訪れて下さる患者様に向き合って参りたいと考えております。



ラウンジ

病室



診療科目 外科、胃腸科・肛門科・消化器科・麻酔科・リハビリテーション科・その他総合診療

診療時間 午前 9:00～12:00
※水曜、土曜は12:30まで
午後 14:00～18:00

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	△	○	○	△

休診 水曜午後 / 土曜午後 / 日曜 / 祝日

〒709-0855 岡山市東区瀬戸町沖210

☎ 086-952-3331 Fax: 086-952-2761

ホームページ: <http://www.yoshiigeka.com>



◆公共交通機関をご利用の場合

宇野バス
ネオポリス(東6丁目・西9丁目)行き乗車
「沖下」下車 徒歩1分
駐車場38台